



f\$T

fP\$T

%

\$%\$; %t \$

	%t &	& \$ (

~ f1\$T

~ f1\$T

\$((&#

&

(

fi

fi

)& &#

)& &#

*# \$

fist

fist

.....

.....

'
'
'
'

'
'

(5) 飼料一般の成分規格

飼料の使用又は飼料添加物を含む飼料の使用が原因となって、有害畜産物（家畜等の肉、乳その他の食用に供される生産物で人の健康をそこなうおそれがあるものをいう。以下同じ。）が生産され、又は家畜等に被害が生ずることにより畜産物の生産が阻害されることを防止するため、飼料若しくは飼料添加物の製造、使用、保存の方法及び表示について、基準が定められ、また、飼料若しくは飼料添加物の成分について、規格が定められています。（「飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令」昭和51年7月24日農林省令第35号（以下「成分規格等省令」という。））

ア 飼料は、抗菌性物質（飼料添加物として指定されたものを除く。）を含んではならない。

イ 次の表の対象飼料の欄に掲げる飼料及びうずら（産卵中のものは除く。）を対象とする飼料以外の飼料は、同表に掲げる飼料添加物を含んではならない。

ウ 次の表に掲げる対象飼料が含むことができる飼料添加物の量は、同表に掲げるとおりとする。

（平成27年12月7日改正）

飼料添加物名	対象飼料 単位	鶏（ブロイラーを除く。）用	ブロイラー用		豚用		牛用		
		幼すう用 中すう用	前期用	後期用	ほ乳期用	子豚期用	ほ乳期用	幼齢期用	肥育期用
亜鉛バシトラスリン	万単位	16.8～168	16.8～168	16.8～168	42～420	16.8～168	42～420	16.8～168	
アピラマイシン	g力価	2.5～10	2.5～10	2.5～10	10～40	5～40			
アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン	g力価	5～55	5～55		5～70		20～50	20～50	
エフロマイシン	g力価				2～16	2～16			
エンラマイシン	g力価	1～10	1～10	1～10	2.5～20	2.5～20			
クロルテトラサイクリン	g力価	10～55	10～55				10～50	10～50	
サリノマイシンナトリウム	g力価	50	50	50				15	15
センデュラマイシンナトリウム	g力価	25	25	25					
ナラシン	g力価	80	80	80					
ノシヘプタイド	g力価	2.5～10	2.5～10	2.5～10	2.5～20	2.5～20			
バージニアマイシン	g力価	5～15	5～15	5～15	10～20	10～20			
ピコザマイシン	g力価	5～20	5～20	5～20	5～20	5～20			
フラボフォスフォリボール	g力価	1～5	1～5	1～5	2～10	2.5～5			
モネンシンナトリウム	g力価	80	80	80			30	30	30
ラサロシドナトリウム	g力価	75	75	75					33
硫酸コリスチン	g力価	2～20	2～20	2～20	2～40	2～20	20		
リン酸タイロシン	g力価				11～44				
アンプロリウム・エトパペート	g	アンプロリウム	40～250	40～250					
		エトパペート	2.56～16	2.56～16					
アンプロリウム・エトパペート・スルフアキキサリン	g	アンプロリウム	100	100					
		エトパペート	5	5					
		スルフアキキサリン	60	60					
クエン酸モランテル	g				30	30			
デコキネート	g	20～40	20～40	20～40					
ナイカルバジン	g		100						
ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム	g	40	40	40					

注1 対象飼料とは、次のものをいう。

		10
		&# &# *#

2

#! (

\$! #

#! &

\$

\$(#

fi fl

fi fl

\$

##

\$

%##

%#

fi fl

+

fi fl

+

\$

+#

fi fl

fi fl

+

\$

+#

\$

\$! #

fi fl

fi fl

1

2

3

&#^Z

&

*#^Z

fi fl %

fi fl

*#^Z

70kg

70kg

fi*fi

fi fi

fi fi fi(fi

*

)

fi fi

\$

fi) fi

%

fi) fi

fi fi

fi fi

fi fi

fi fi

fi fi

fi fi

fi+fi

fi, fi

fi fi

fi fi

fi fi

fi fi

- (ハ) 対象とする家畜等が定められている飼料にあつては、対象家畜等
- (カ) 飼料添加物を含む飼料にあつては、含有する飼料添加物の名称及び量
- (キ) (5)のウの表に掲げる飼料添加物を含む同表の対象飼料は、搾乳中の牛又は産卵中の鶏若しくはうずら並びに食用を目的としてと殺する前7日間の牛（生後おおむね6月を超えた肥育牛を除く。）、豚、鶏又はうずらに使用してはならない旨。
- (ク) サリノマイシンナトリウム、モネンシンナトリウム又はラサロシドナトリウムを含む牛用の肥育期用飼料にあつては、次の文字
使用上の注意
 - 1 生後おおむね6月を超えた肥育牛（搾乳中のものを除く。）以外には使用しないこと（特に馬に給与すると障害を起こしやすいので注意すること。）。
 - 2 新たにこの飼料の給与を開始しようとする場合は、給与量を段階的に増加させていくこと。
- (ケ) サリノマイシンナトリウム又はモネンシンナトリウムを含む牛用の幼齢期用飼料にあつては、次の文字
使用上の注意
 - 1 生後おおむね3月を超え6月以内の幼齢牛以外には使用しないこと（特に馬に給与すると障害を起こしやすいので注意すること。）。
 - 2 新たにこの飼料の給与を開始しようとする場合は、給与量を段階的に増加させていくこと。
- (コ) モネンシンナトリウムを含む牛用のほ乳期用飼料にあつては、次の文字
使用上の注意
 - 1 生後おおむね3月以内の牛以外には使用しないこと（特に馬に給与すると障害を起こしやすいので注意すること。）。
 - 2 新たにこの飼料の給与を開始しようとする場合は、給与量を段階的に増加させていくこと。
- (カ) ナイカルバジンを含むブロイラー用の前期用飼料にあつては、次の文字
使用上の注意

ふ化後おおむね8週間以内に出荷するブロイラーに使用する場合は、この飼料を給与した場所と異なる場所で、当該ブロイラーを食用を目的として屠殺する前7日間以上飼養すること。

(10) 飼料品質の表示基準

（飼料品質表示基準（昭和51年7月24日農林省告示第760号 平成27年10月1日一部改正））

表示制度は、飼料の消費者である畜産農家が、飼料を購入する時に、栄養成分に関する品質や配合割合等が容易に識別できるように定められた制度です。

① 表示事項

飼料の品質につき表示すべき事項（以下「表示事項」という。）は別表（p.14）のとおりとする。

② 遵守事項

ア 表示の方法

①に規定する表示に際しては、製造業者、輸入業者又は販売業者（以下「製造業者等」という。）は、次の各号に規定するところによらなければならない。

(ア) 飼料の名称

文字のみをもって表示し、図形又は記号等を用いないこと。

(イ) 飼料の種類

① 公定規格が定められている飼料の種類

飼料の公定規格（昭和51年7月24日農林省告示第756号。以下「公定規格」という。）の表の飼料の種類に掲げる名称を用いること。

② 公定規格が定められていない飼料

単体飼料	飼料の公定規格別表の原材料に掲げる名称。該当しないものは原材料の一般的名称を用いる。		
混合飼料	飼料の特性又は製法が明らかになる名称を用いる。	例 1. 主な構成原材料を表すもの	米ぬか油かす混合飼料
		例 2. 多種の飼料添加物を含み、ブレミックス的に使用されるもの	ビタミン・ミネラル混合飼料 鶏用ビタミン・生菌剤混合飼料（対象家畜が限定されるもの）

		&	
		'!	
		(!	

~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~

~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~

G7A
@8

>VT_

fi fl

fi fl

~ ~ ~

)#	
	\$#	
	\$#	
	\$#	
	\$#	
%~		

~ ~ ~
 ~ ~ ~
 ~ ~ ~

fi fl

A	D ₃
---	----------------

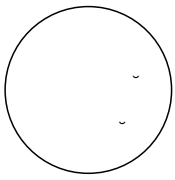
	A	1,000,000	
	D ₃	200,000	
	dl	50	
	()	FeSO ₄	10g
		(Fe	3.67)
	()	CuSO ₄	10g
		(Cu	3.98)
		Zn	10

- ~ f\$ft
- ~ fPft
- ~ fi&ft
- ~ ft ft
- ~ fi(ft

fi ft

(9) 飼料一般の表示の基準

○ 配合飼料の表示例



\$ \$ f\$fl \$

^Z

%#Z \$

N	P\$
.....	%

		%
.....
.....
.....
.....
.....	N% P

\$

%

N &P

\$

%

&

N% P

&

N &P

fi\$\$fT

fi fl fi fl

fi fl

fi fl

T
U
V
W
X \$&+

	fi fl fi fl fi fl fi fl fi fl fi fl fi fl \$% \$\$)
	fi fl~ fi fl~ fi fl~ fi fl~ fi fl~ fi fl~ fi fl~ fi fl~ \$ \$# %+ \$\$)

	fi fl
	fi fl
	fi fl fi fl fi fl

fi fl
fi fl
fi fl
fi fl

\$

%

\$~

%

fi\$%T

#! \$(~

&

#! #%

fi fl

fi fl

fi fl
fi fl

\$

%

fi&fl

% \$

		(SRM)	2	2	2
)	2		
			2	2	2
			2		
		SRM	2	2	2
		(2		
		()	2	2	2
	0.15	SRM	2		
	0.15				
			2	2	2
2					

\$

% FE@ &#

&

(

)

#! #%

0.15

SRM

+

\$#

② 製造基準適合確認事業場（福岡県内）（平成 28 年 1 月 5 日現在）

		\$#) +ž&	; \$,! & %~
		+ \$*	; \$*!, !)
		&ž) *ž%%	; \$+!, ! \$&
)& %	; \$*! +!'
		\$' %	; %(! & %~
		\$%ž(; \$)! '\$(
		\$#) +ž&	; \$)! '\$(

(14) 飼料の有害物質の指導基準

)& \$# \$)& 5 %#(# %) %

%&

			mg/kg
	B		0.01

%&

%&

%

		`Z" ^Z`		
		\$~	#! \$~	
		\$#~	&	
		&		\$~
		#! *~	\$~	
		\$#~	\$~	(
		(&
		#! \$~		
		%#~		\$(
		((
		#! (#! %	

		Z" ^Z		
		%	\$	-
		#! (~	#! %	-
		#! %	#! \$	&
		%#	\$#	-
		%	-	%
		\$	-	-
		#! %	#! \$	-
		(~	(~	&
		%	#! \$	-
		%	\$	#! *~
		% (~	\$ (~	\$#
		#! %	-	%
		(~	%	%
		(~	\$	%
		%	-	#! &
		' #	%#	\$ (~
		\$ (~	-	-
		\$#	\$	-
		\$#	#! \$	&
		(~	-	\$
		#! %	#! \$	-
		\$	-	#! &
		#! # ~	#! #%	-
		&	#! *~	-
		#! &	#! \$	\$#
		\$	-	#! (~
		&	#! (~	-
		&#	&	-
		%#	-	(~
		\$&#	&#	-
		(~	-	\$
		#! # (~	#! \$	-
		%#	(~	(~
		#! %	#! \$	-
		&	#! *~	#! &
		(~	-	%
		#! (~	#! %	-
		% (~	\$#	*~
	7	\$	-	-
		%	-	-
		#! &	#! \$	-
		#! &	-	#! # (~
		%	-	-
		#! %	#! %	-
		#! (~	-	-
		#! # (~	-	-
		%	#! \$	%
		#! %	-	-
		#! *~	-	-
		#! &	-	-
		#! %	#! \$	-
		#! %	#! \$	-
		%	-	-
		#! %	#! \$	#! \$
		#! \$	#! # (~	-
		#! &	#! \$	-
		#! \$	-	-
		#! #%	-	-
		#! *~	-	-
		#! &	-	-
		#! &	-	-
		#! *~	-	-
		#! %	-	-

\$

\$ \$ f\$fl

mg/kg

			&
			*
			\$
			&
			#!
			\$
			%
			*
			\$(
			#! #%
	5\$		#! #!
			\$
			\$
			% (

\$

%

&

!

f\$(f!

..

..

..

..

\$(' +

%+

&(

..

..

..

..

..

..

..

..

..

..

..

.....

~
~
~
~
~
~

(\$ &)

~
~
~
~
~
~

10~

~
11~

~
12~

~
13~

~
14~

~
15~

~
16~

~
17~

~

18

~

~

~

~

~

%

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

\$(

)

\$(* #

•
•
•
•
•
•
•
•

•

• •

•

• •

•

•

•

•

•

~
~
~
~
~

~
~
~
~
~

(% (\$ & *%

~
~

~

(% \$# (% *, &

~

\$& &# \$% \$+%

a (b)

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

10~

~

~

~

~

~

~

~

11~

~

~

~

&\$

~

~

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

\$, \$# \$+ \$&+' (

FAMIC

http://www.famic.go.jp/ffis/feed/tuti/27_1853.html

f1\$*f1

\$(, \$) \$(*#
%* & %)

%+ &(

f1/f1

1 5 f1f1

第3 基本的な指針

BSE等の発生防止に万全を期するには、動物由来たん白質等を含む飼料を反すう動物に給与しない対策を講じることが重要である。他方、動物由来たん白質等を含む飼料を反すう動物以外の動物に対して給与しないこととするのは困難である。このため、飼料等の製造、輸入、流通、保管、給与に当たっては、これらの各過程において、次のとおり、A飼料、B飼料と水産専用飼料とをそれぞれ適切な方法により確実に分離するなど必要な措置により、動物由来たん白質等のA飼料への混入防止を効果的かつ効率的に進めることとする。特に、水産専用飼料については、その製造工程が「飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令の規定に基づく動物由来たん白質及び動物性油脂の農林水産大臣の確認手続について」（平成17年3月11日付け16消安第9574号農林水産省消費・安全局長通知）に定める牛血粉等及び牛肉骨粉等を原料とする養殖水産動物を対象とする飼料の製造基準を満たすことについて事前の大臣確認の対象とするとともに、大臣確認後もその遵守状況について立入検査で確認を要するものとする。

なお、飼料等の製造、輸入、流通、保管、給与を行う者が1及び2に掲げる事項について委託等により自ら行わない場合は、当該者は、これらを行う者との間で必要な措置を講じることについて取決めを行い、かつ、当該取決めが実施されていることを定期的に調査、確認することとする。

1 通則

- ① A飼料として用いることとしている飼料等の製造、輸入、流通、保管、給与に当たっては、これらの各過程において、B飼料、水産専用飼料若しくは動物由来たん白質等を含有し、又は混入しないよう適当な措置を講じることとする。
- ② A飼料として用いることとしている飼料等について、B飼料、水産専用飼料若しくは動物由来たん白質等が混入し、又は混入したおそれがあるときは、当該飼料を回収し、適切に再生又は廃棄することとし、A飼料として用いないこととする。
- ③ B飼料として用いることとしている飼料等の製造、輸入、流通、保管、給与に当たっても、これらの各過程において、牛肉骨粉等若しくは水産専用飼料を含有し、又は混入しないよう適当な措置を講じることとする。
- ④ B飼料、水産専用飼料又は動物由来たん白質等がA飼料専用の容器に充てんされた場合は、速やかに当該容器を洗浄クリーニングすることとする。
- ⑤ B飼料、水産専用飼料又は動物由来たん白質等がA飼料のみを取り扱う場所を直接通過した場合は、速やかに当該場所を洗浄クリーニングすることとする。
- ⑥ 飼料等及びその原料を扱う施設、設備、機器並びに環境を定期的に清掃、点検、検査することとする。
- ⑦ 作業従事者を介して、B飼料、水産専用飼料又は動物由来たん白質等がA飼料に混入することを防止するため、B飼料、水産専用飼料又は動物由来たん白質等を取り扱った後にA飼料を取り扱う作業従事者は、作業着を交換し、又はエアール等により被服、手足、靴等の付着物を除去する等の対策を講ずることとする。
- ⑧ B飼料及び動物由来たん白質等を取り扱う施設、設備、機器等をA飼料を取り扱う施設、設備、機器等に転用する場合は、事前に次のことを行うこととする。
 - ・洗浄クリーニングを実施すること。
 - ・洗浄クリーニング後に取り扱うA飼料の最初のロットについて、動物由来たん白質等が含まれていないことを確認すること。
- ⑨ 水産専用飼料を取り扱う施設、設備、機器等をB飼料を取り扱う施設、設備、機器等に転用する場合は事前に次のことを行うこととする。
 - ・洗浄クリーニングを実施すること。
 - ・洗浄クリーニング後に取り扱うB飼料について、牛肉骨粉等が含まれないことを確認すること。
- ⑩ 洗浄クリーニングは、洗浄の効果について事前に十分な検証を行った方法を用いることとする。

2 細則

(1) 搬送

- ① A飼料の搬送経路は、B飼料、水産専用飼料及び動物由来たん白質等の搬送経路と共用しないこととする。
- ② A飼料の搬送に当たっては、専用の容器を用い、又は搬送経路に適当な覆いを設ける等により、原則

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

%

f\$+f'

\$+ + &# \$+)#*'
%* & %)

%+ &(

% \$))

\$* \$\$ \$) , (*'

f\$fi

fi

fi

z\$~

z%~

z\$~

z%~

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl fi fl

fi fl

()

fi fl fi fl

fi fl fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

%

fi\$#fl

%

\$\$, &

*#

%

&#

%

+#

%

&

fi fl

\$(, \$(\$(\$(*#

fi fl

\$& (

fi fl

fi fl

(% (\$# (% *, &

fi fl

fi fl

%# ' \$ \$, \$' *%

fi fl

(\$

&(

fi fl

)&

\$#

\$'

)& %#(#

fi fl

+

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

..

..

..

..

..

..

\$

%

fi fl

..

..

..

..

..

fi fl

fi fl

..

..

..

..

..

fi fl

fi fl fi fl fi fl

+

(#

\$#

%

fi fl

fi fl

+

fi fl

fi fl

fi fl

+

fi fl

fi fl fi fl

fi fl

fi fl

fi fl

*# &# +# &

fi fl

fi fl

+

+

(

%

~ ~ ~ ~ ~
~ ~ ~ ~ ~
~ ~ ~ ~ ~
~ ~ ~ ~ ~
~ ~ ~ ~ ~
~ ~ ~ ~ ~

(19) 動物性たん白質（肉・魚類など）を含む食品残さの飼料利用にかかる留意点

(平成 28 年 1 月現在)

近年、資源の有効活用、飼料自給率向上等の観点から、食品残さを家畜の飼料原料とする動きが全国で展開されています。しかしながら、飼料利用の際には、安全性に留意した適切な利用が求められています。特に「動物性たん白質を含む食品残さ」は、BSE 対策上の法的な規制があり、取扱いに注意すべき原料もありますので、以下の表を参照の上、適切な飼料利用に努めてください。

また、下表の区分に従った注意以外にも、安全性確保上必要な事項（有害物質、病原微生物、異物混入の防止など）に、十分留意した原料や製造の管理を行ってください。

【飼料安全法の対象】 ・ ・ 牛、豚、めん羊、山羊、しか、鶏、うずら、みつばち及び養殖魚用の飼料が飼料安全法の適用対象です。次の区分表は、この飼料安全法の対象飼料に利用する場合の規制です。

① 動物性たん白質を含む食品残さ^(注)の飼料化区分表（事業形態ごと）

(注)：この区分表の対象は、肉や魚など、ほ乳動物・家きん・魚に由来する動物性たん白質を含む食品残さです。

ただし、卵及び乳のみに由来するたん白質は、下記②動物性たん白質を含まない食品残さ（野菜くず、おから等）と同じ扱いで、全ての家畜向けの飼料原料に利用可能です。

区分表

事業形態	事業場例	加工残さ、厨芥に該当するもの	製品に該当するもの
⑦食品製造業、食品小売業 (④に該当するものを除く。)	・食品製造工場、加工場 ・精肉店、鮮魚店、その他店舗内加工を行った上で小売を行う事業場(スーパー等小売店舗の当該部門を含む)	(製造加工工程からの副産物・残さ、店舗内加工に際して生じた残さ) 飼料安全法に基づく大臣確認さ	(返品・在庫品・流通過程の破損品等の製品) 飼料に利用可能 (豚・鶏・うずら・養殖水産動物用に限る)
④外食産業 (弁当・惣菜等の食品小売業を含む)	・弁当、総菜、パン等の製造・販売店(スーパー等小売店舗の当該部門を含む)。 ・コンビニエンスストア ・給食センター ・レストラン、旅館 ・社員食堂、学校(給食) 注:枝肉を取扱っている事業場は⑦と同じ扱い	(店舗(厨房)内加工に際して生じた残さ(厨芥)) 飼料に利用可能 (豚・鶏・うずら・養殖水産動物用に限る)	(返品・在庫品・流通過程の破損品等の製品、食べ残し) 飼料に利用可能 (豚・鶏・うずら・養殖水産動物用に限る)

② 動物性たん白質を含まない食品残さ（野菜くず、おから等）の取扱い

(卵及び乳のみに由来するたん白質は、野菜くず等と同じ扱いです。)

- ⑦ 動物性たん白質を含むものと分別して排出・収集されたもの
 - ・鶏・豚・養魚用の飼料に使用できますが、牛・めん羊・山羊・しか用の飼料には使用できません。
- ④ 動物性たん白質と完全に分離された工程（施設）の事業場から排出され、かつ、BSE 防止のためのガイドラインに準拠した「A 飼料」としての管理（分別管理及び表示など）がされているもの
 - ・牛を含む全ての家畜用飼料に使用できます。

出典：食品残さ等利用飼料の安全性確保のためのガイドラインより

fP/#fT

%#

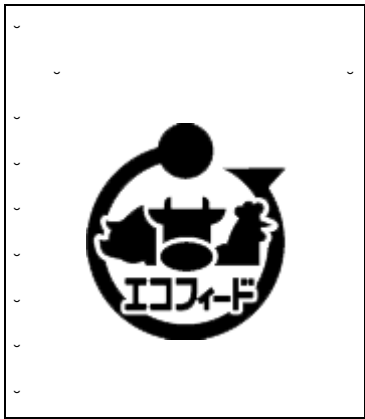
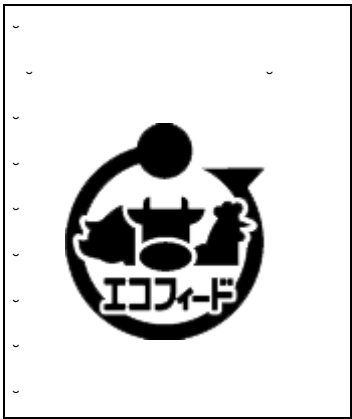
(

[ggc-" ^Tf[\^l b! _\a! Ze!]c" XvYXXW[g` _`

T E ~ L ~
F A ~ X ~
ě-māil ~ XvYXXW ^Tf[\^l b! be!]c ~

[ggc-" " XvYXXW_\a! Ze!]c

.....
TEL
FAX
e-mail XVbYXXW fXV!_ \a! Ze!]c



ff/\$fT

	\$	
	%	

\$

%

		d!'+
		1

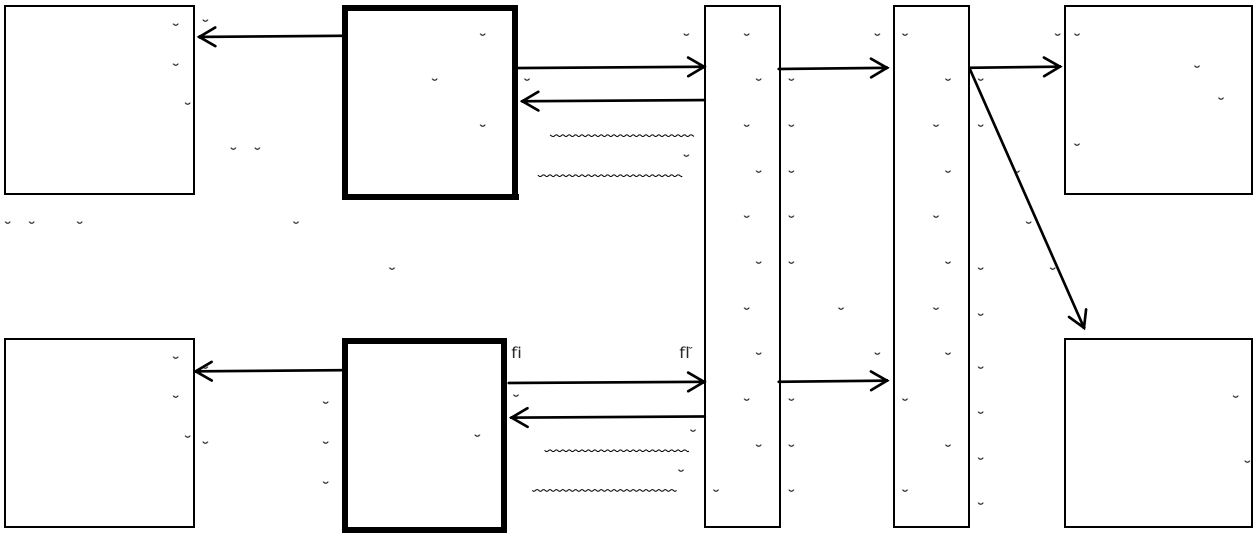
\$

%

\$

&

[ggc-""j]j!ceXY!Yh^hb^T!_Z!]cfl



c! (#)'

	GX_~ #, %&* & (ž) \$%~ 9TK_~ #, %&* \$) ž#%#(+\$#ž##' %	\$ +ž+
	GX_~ #, ')ž%&% %&% 9TK_~ #, ')ž% ž\$) &#~	+&+ž##) +	%#'\$ ž\$~
	GX_~ #, &ž) #ž\$++(% 9TK_~ #, &ž) #ž\$++) &~	+#*ž#+&\$~	& *ž\$~
	GX_~ #, ' +ž%ž\$', ()~ 9TK_~ #, ' +ž% ž\$&\$&'~	+%#ž###'~	+ž\$~
	GX_~ #, ' %&(%&(\$#)~ 9TK_~ #, ' %&(%&(, ' &~	+&&ž##' \$~)#) ž\$~
	GX_~ #, &#ž%&ž#&+% 9TK_~ #, &#ž%&ž*+) \$~	+% ž###(~	\$ %&\$~

Ca	Na		

(

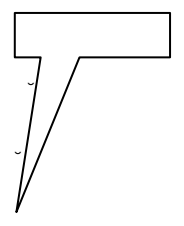
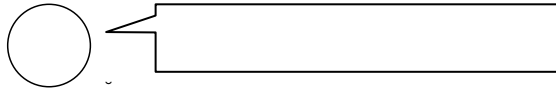
&

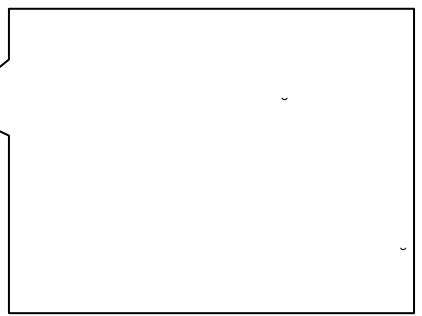
	[ggc-""jjj!YT\!Zb!]c"YY\f"YXXWfhU%R^Tae\f[T![g`_fl`
	1

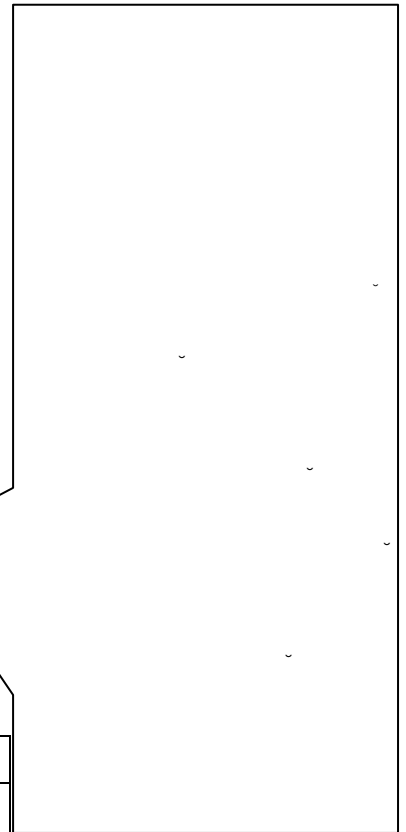
(

)+

A large rectangular frame containing a dotted line and various symbols. The symbols are arranged vertically on the left side of the frame: \$, %, &, (,), and *. The dotted line is horizontal and spans most of the width of the frame. There are also two large square brackets at the top of the frame, each containing a dotted line.

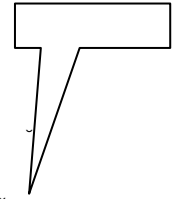
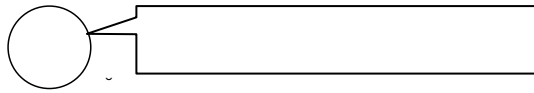


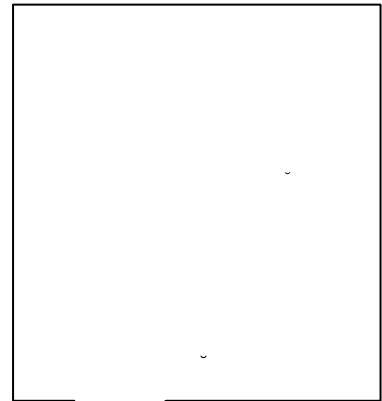




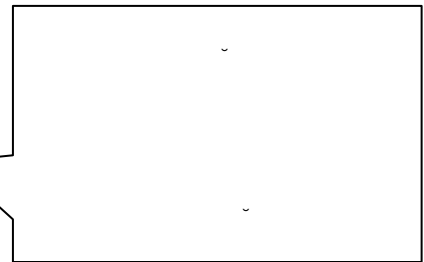
	A
	L

		2
		B S



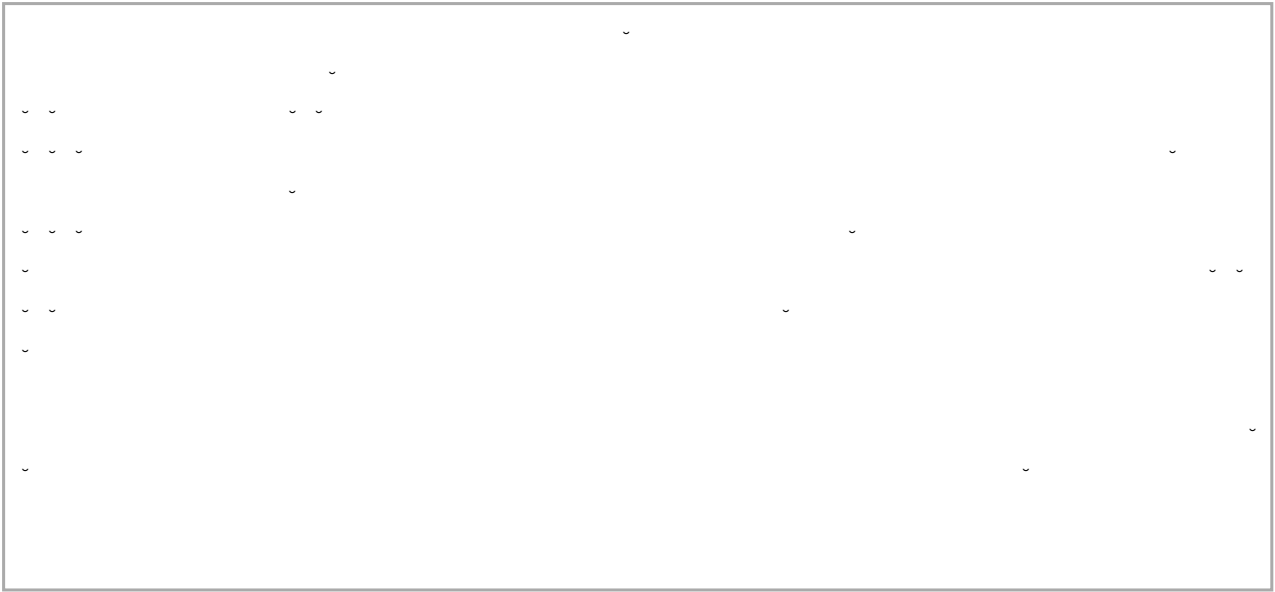


	fi fl

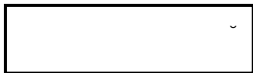
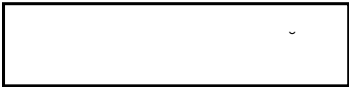




fi fl		
	2 2	



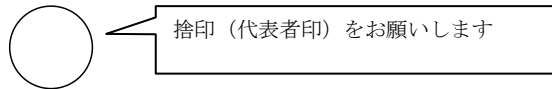
			B S



DL

B

《飼料輸入業者届の記載例》



飼料（添加物）輸入業者届

平成 年 月 日

農林水産大臣 殿

住所 福岡県〇〇市〇〇町〇〇番地〇号
 氏名 〇〇株式会社
 代表取締役社長 〇〇〇〇 印

代表者印

下記のとおり飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律第50条第1項の規定により届け出ます。

記

1 氏名及び住所

〇〇〇〇株式会社 代表取締役社長 〇〇〇〇
 福岡県〇〇市〇〇町〇〇番地〇号

2 販売業務を行う事業場及び飼料（添加物）を保管する施設の所在地

(1) 販売業務を行う事業場の所在地

福岡県〇〇市〇〇町〇〇番地〇号（本社）
 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇番地〇号（〇〇支店）
 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇番地〇号（〇〇工場）

(2) 飼料を保管する施設の所在地

〇〇県〇〇市〇〇町〇〇番地〇号（〇〇株式会社〇〇倉庫）
 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇番地〇号（〇〇支店）

●自社の製造品目について販売業務を行っている本店、支店等を記載してください。
 ●保管施設は、他業者の倉庫を賃貸借契約等で恒常的に使用している倉庫は記載してください。販売後の相手先の倉庫は記載しないでください。

3 輸入に係る飼料（添加物）の種類

飼料の種類
肉豚飼育用配合飼料
家禽用混合飼料

4 輸入に係る飼料（添加物）が製造されたものである場合における当該飼料（添加物）の原料又は材料の種類

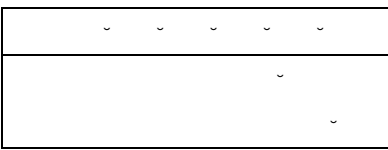
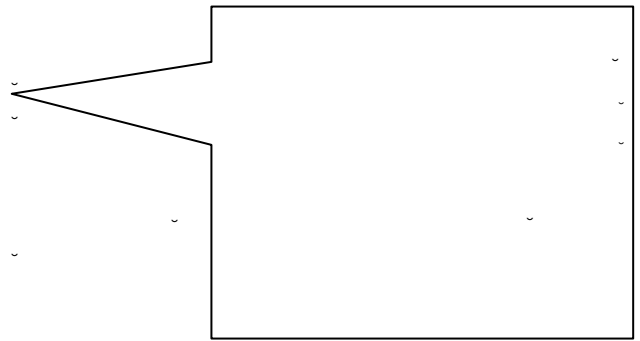
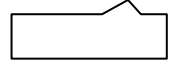
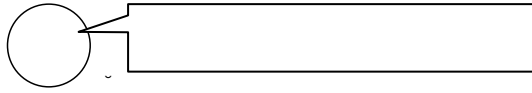
飼料の種類	原料又は材料の種類	
	飼料添加物	
肉豚飼育用配合飼料	とうもろこし、大麦、小麦・・・	ビタミンA粉末、塩酸アミノ酸・・・
家禽用混合飼料	あわ、きび、大豆油かす・・・	ビタミンA粉末、塩酸アミノ酸・・・

5 飼料（添加物）の輸入の開始年月日

平成〇〇年〇〇月〇〇日

※参考として飼料（添加物）の製造フローシートを添付する。

●原材料は、飼料の種類ごとに、飼料添加物と分けて、使用する全ての種類を記載してください。
 ●配合飼料の原材料となる飼料添加物は、正式な飼料添加物の名称で記載してください。
 ●鉱塩等を輸入される場合、飼料添加物の含有が考えられますので、成分規格等省令の確認及び重金属の含有状況が判る資料を添付してください。
 ●魚粉の輸入には、事前に大臣確認が必要です。



[Redacted]

1

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]	[Redacted]
[Redacted]	[Redacted]

[Redacted]
[Redacted]

[Redacted]

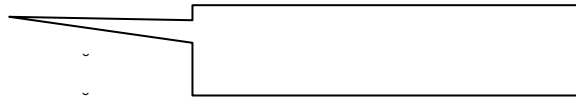
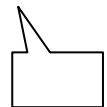
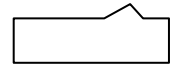
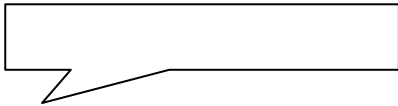
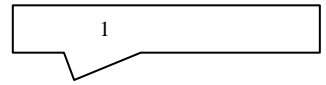
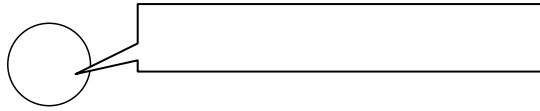
[Redacted]	[Redacted]
[Redacted]	[Redacted]

B12

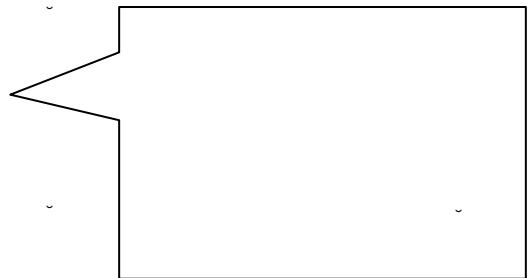
[Redacted]

[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]

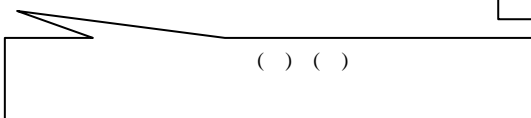
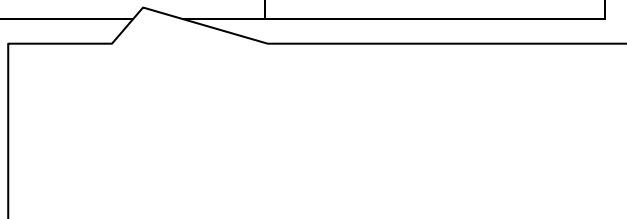
() ()

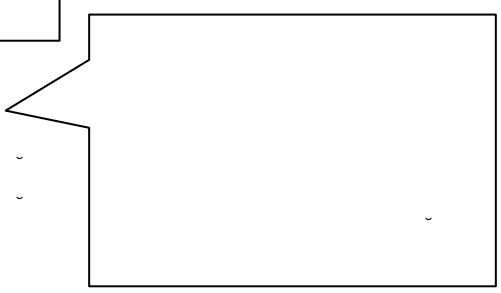
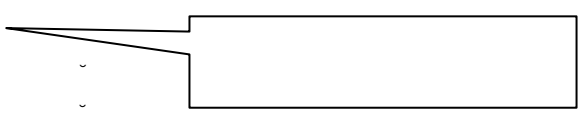
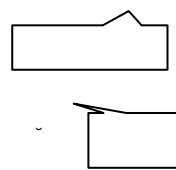
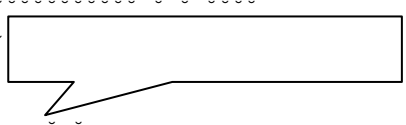
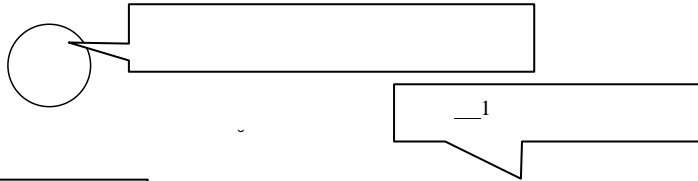


fl

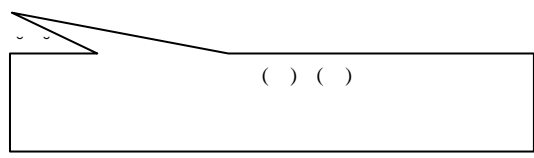
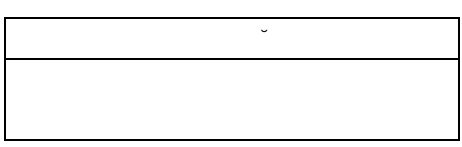


		A





fl





[Redacted]

1 [Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

ft

[Redacted]	[Redacted]
[Redacted]	[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

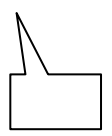
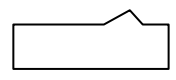
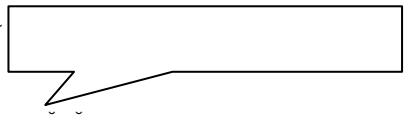
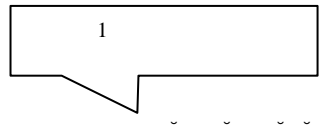
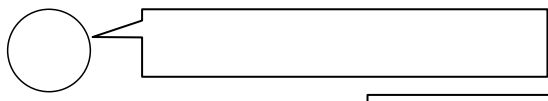
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
[Redacted]	: ebj g[Xež \$##~	[Redacted]	[Redacted]

[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]

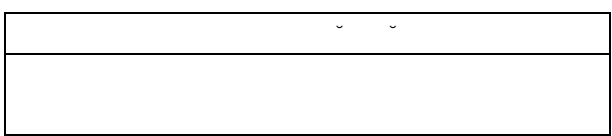
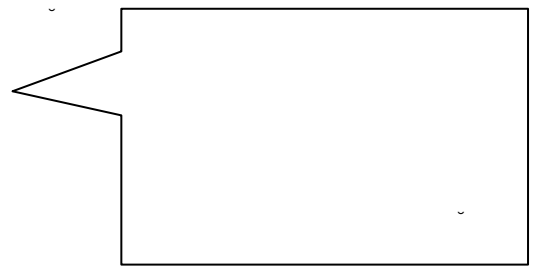
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	g' [~
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	5' F" [~
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	g' [~

[Redacted]

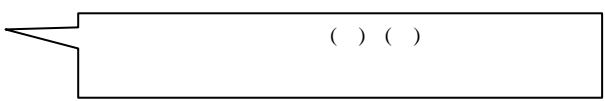
[Redacted] () ()

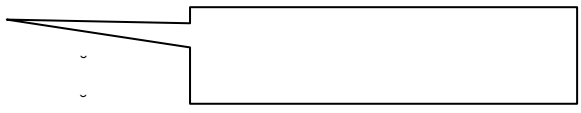
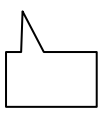
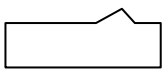
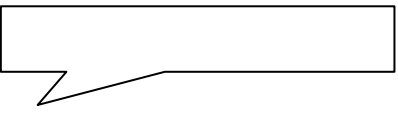
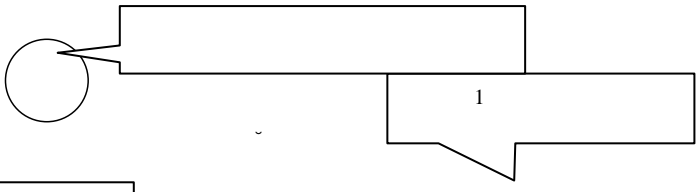


fl

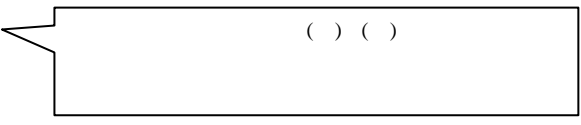
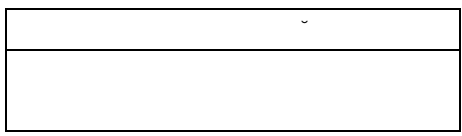


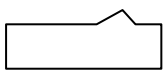
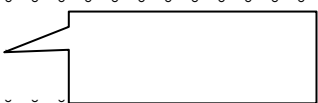
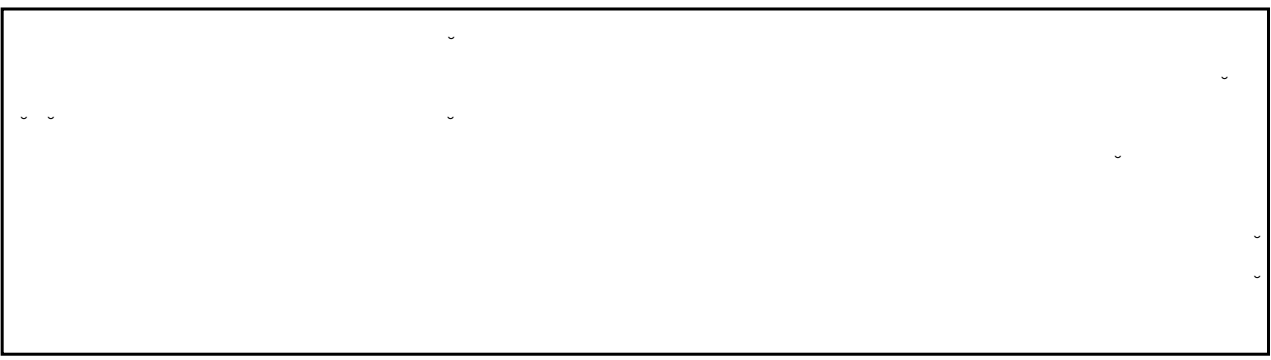
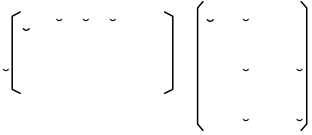
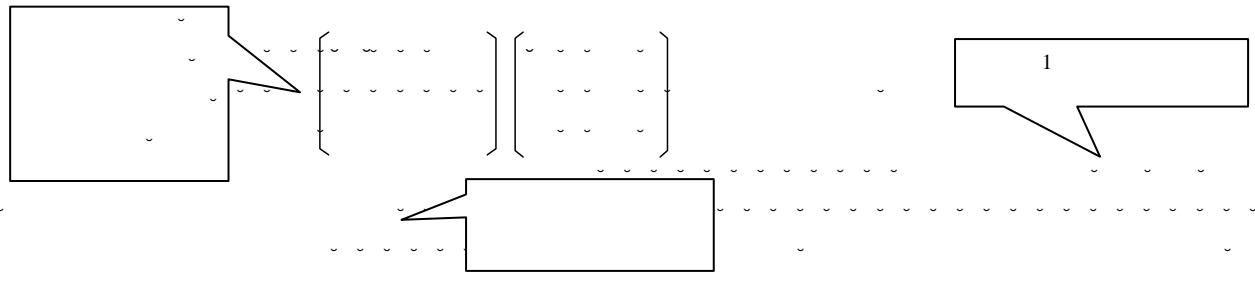
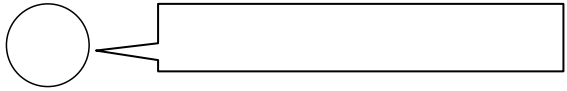
	FgeXcgb` Vxf` i \e\WØV[eb` bZXaXf` 2 2	





fr





ff06f

\$

TDN

%&	\$#f\$#f	#f#f	' f#f	\$* f#f	#f#f	&\$f\$#f
%	+f+f	#f#f	* f#f	\$' f#f	#f#f	% f+f
%&	\$#f+f	#f#f	%f#f	\$, f#f	#f#f	&\$f+f
%&) f(f	#f#f	' f#f	&f#f	#f#f	\$&f(f
%*) f f	#f#f	(f#f	\$f#f	#f#f	\$%f f

fi fl

	%&)+#	%&#)#	%&##	\$Z\$&#	\$Z#%#	%&()#	&Z#*#	&Z'##

+\$+Z+(', \$%& ,

G8? #, %&, %&Z(%&% 94K #, %&, %&Z(&#+

ff/ft

~

~

\$

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

~

+

&

\$

(#

&#

\$#

fifft

畜産農家の皆さんは、飼料の適正使用（給与）を心がけてください。

飼料適正使用（給与）チェックリスト

- ① 形状、色は良好ですか。
- ② 異物が混じっていませんか。
- ③ 保管中に、雨等で濡れていませんか。
- ④ カビが生えていませんか。
- ⑤ 匂いは良好で、カビ臭、刺激臭、腐敗臭はありませんか。
- ⑥ 保管中に、害虫、ネズミ等に汚染されていませんか。
- ⑦ 種類、中 _____ 獣医師の指示書を守っていますか。（飼料添加剤を注

⑩ 問題のある飼料は適切に処理しましたか。

⑪ 飼料の使用記録はつけましたか。

（使用記録は、ブロイラー、豚は2年間、採卵鶏は5年間、牛は8年間保存してください。）

配合飼料についている表示票をよく読んで正しく使用してください。

特に、 _____ と _____ 欄に書かれていることは必ず守ってください。

- _____ を対象とした飼料には、法律で _____ 等の使用が禁止されています。
原材料の欄をよく見て、 _____ 等が含まれていないことを必ず確認してください。

fP/6T

--	--	--	--

fi&fi

%)

%Z#&

& \$

(#! (

%!'

%#! &

& (

%%	(&Z, ' , ~	\$\$+Z+&%	% Z\$, ' ~	\$/#Z' #&	% %Z) (&	+\$Z#), ~	~ #	\$*Z+&)	*)#Z, &)	& \$~
%&	(%Z(' , ~	\$\$' Z\$, (~	% Z&&%	\$(Z), +	%&Z+%)	\$, #Z((, ~	~ #	\$*Z' &#	*(+Z(+, ~	& \$~
%~	(#Z%#, ~	\$\$#Z#) (~	% Z' &\$	\$')Z, *+	%&Z&%)	\$, ' Z(##	* &+	\$*Z) #%	**)Z+', ~	& %
%Z	' *Z\$&&	\$# Z) %	%&Z%#, ~	\$/+Z%&)	%& Z' (~	\$, ' Z#+	\$Z#*, ~	%Z,) +	*(&Z+#)	& \$~
%&	' *Z%+~	\$\$##Z((*~	%&Z%#, ~	\$/Z%Z((~	\$/+Z') &	+\$' Z*) \$	\$Z\$)' ~	% Z& #	*%Z#&*	& \$~

%) () *Z* &

\$! %

(\$! +

%! *

\$+! \$

%%	' &Z' & ~	~ + Z% %	%(Z%#) +Z) &#	%& Z+*(~	\$\$) Z*(~	~ &#**	&%Z%+ ~) #*Z+\$%	
%&	' &Z\$#+ ~	~ + Z+, *~	%#Z+, , ~	**Z)) \$	%&Z%&)' ~	\$\$*Z(% ~	~ %Z, ~	%Z) %%	(, (Z%&)	
%~	' &Z' ,) ~	~, \$Z+##	%&Z) %Z	+#Z\$#\$	%#) Z#) #	\$#&Z, () ~	~ &' ~	%Z%Z' ~	(* &Z) ') ~	
%Z	' \$Z&\$, ~	~ +(Z\$*+ ~	\$, Z%Z, ~	++Z) ' *~	\$, (Z&%Z	\$#) Z' ' ~	~ &' *~	&*Z, (&	(* Z+#(~	
%&	& Z%&(~	\$\$##Z* &#	\$/+Z\$&%	, *Z%&)	\$/+Z) (\$	\$/%Z, , +	~ \$' *~	&#Z) # (~	() *Z* & ~	

%)

) *Z+*'	% +Z) \$&	\$/#Z% (~	\$/&Z(+ (~	(*Z, (*~	&) Z+, ' ~	&#Z\$, *~	\$, Z(\$+ ~	&) Z+ (~

%)

	() *Z* & ~	% +Z) \$&	\$/+Z) (%	(~					

4 配合飼料価格安定基金制度

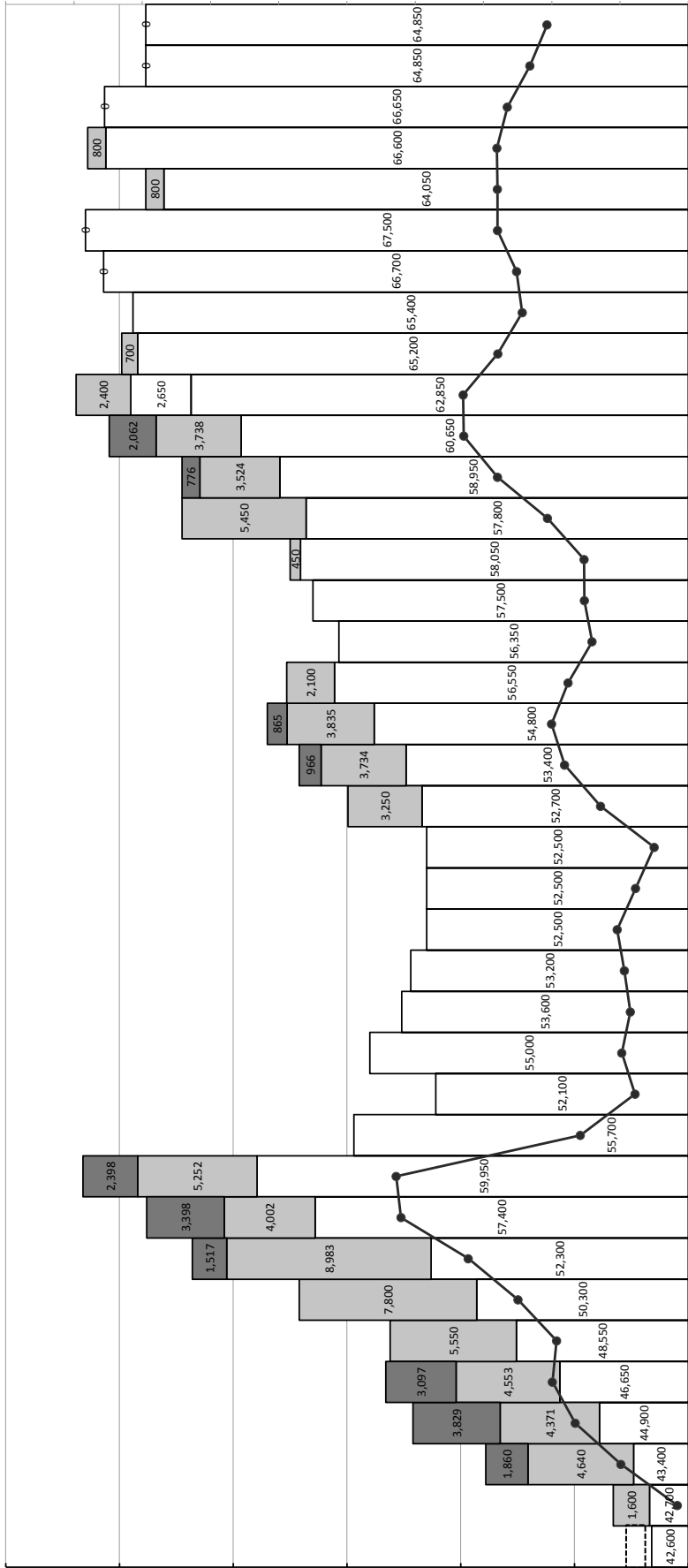
平成 25 年 12 月に制度の見直しが行われ、平成 26 年度から、異常補填については従来よりも発動しやすくなるよう特例基準が新設され、通常補填については発動指標が配合飼料価格から輸入原料価格へ変更された。

《最近の配合飼料価格と補てんの推移》 (全畜種平均農家渡し バラ・トン当たり価格)

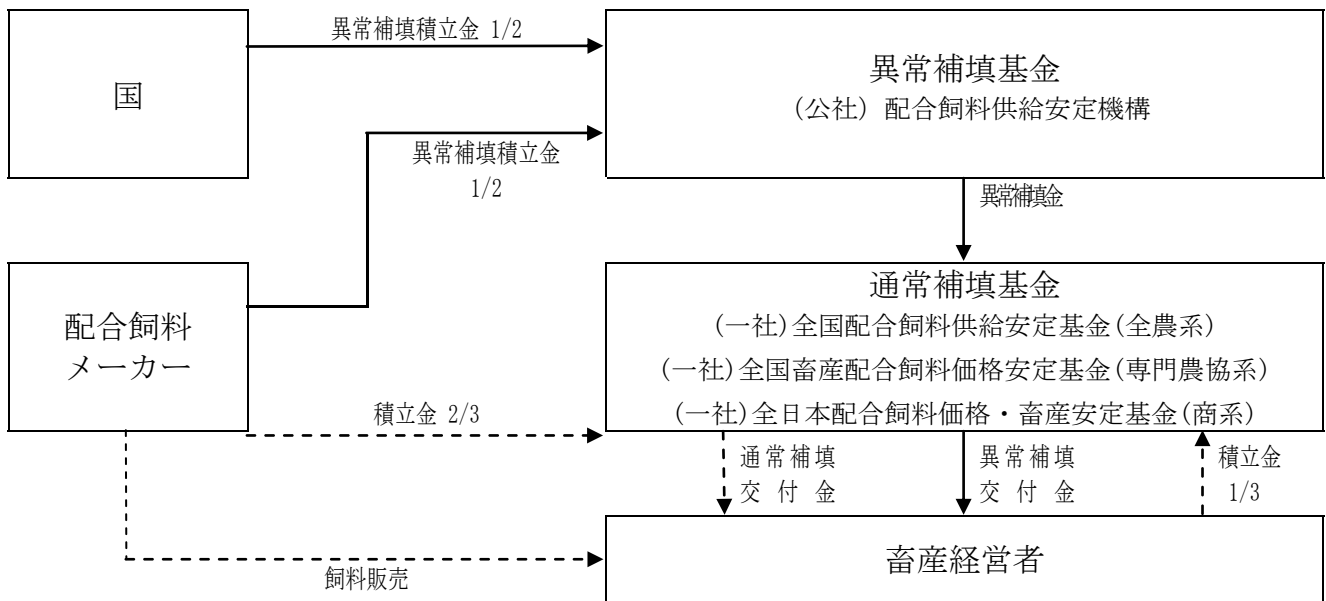
期間	配合飼料価格	補填金額計	うち異常補填金額	実質農家負担額	農家負担増
H18. 10-12	44,300	1,600	0	42,700	100
H19. 1- 3	49,900	6,500	1,860	43,400	600
4- 6	53,100	8,200	3,829	44,900	1,530
7- 9	54,300	7,650	3,097	46,650	1,750
10-12	54,100	5,550	0	48,550	1,800
H20. 1- 3	58,100	7,800	0	50,300	1,850
4- 6	62,800	10,500	1,517	52,300	2,000
7- 9	64,800	7,400	3,398	57,400	5,050
10-12	67,600	7,650	2,398	59,950	2,500
H21. 1- 3	55,700	0	0	55,700	▲4,250
4- 6	52,100	0	0	52,100	▲3,600
7- 9	55,000	0	0	55,000	2,900
10-12	53,600	0	0	53,600	▲1,400
H22. 1- 3	53,200	0	0	53,200	▲ 400
4- 6	52,500	0	0	52,500	▲ 700
7- 9	52,500	0	0	52,500	0
10-12	52,500	0	0	52,500	0
H23. 1- 3	55,950	3,250	0	52,700	200
4- 6	58,100	4,700	966	53,400	700
7- 9	59,500	4,700	865	54,800	1,400
10-12	58,650	2,100	0	56,550	1,750
H24. 1- 3	56,350	0	0	56,350	▲ 200
4- 6	57,500	0	0	57,500	1,150
7- 9	58,500	450	0	58,050	550
10-12	63,250	5,450	0	57,800	▲ 250
H25. 1- 3	63,250	4,300	776	58,950	1,150
4- 6	66,450	5,800	2,062	60,650	1,700
7- 9 ※1	67,900	5,050	0	62,850	2,200
10-12	65,900	700	0	65,200	2,350
H26. 1- 3	65,400	0	0	65,400	200
4- 6 ※2	66,700	0	0	66,700	1,300
7- 9	67,500	0	0	67,500	800
10-12	64,850	800	0	64,050	▲ 3,450
H27. 1- 3	67,400	800	0	66,600	2,550
4- 6	66,650	0	0	66,650	50
7- 9	64,850	0	0	64,850	▲ 1,800
10-12	64,850	0	0	64,850	0
H28. 1- 3	64,150				

※1 H25. 7-9月期の基金からの補填金交付額は2,400円。不足分の2,650円の半額(1,325円)は国が交付。残り半額の交付は飼料メーカーによって対応が異なる。

※2 H26年度以降の配合飼料価格は全農価格である。



5 配合飼料価格安定制度のしくみ



発動要件・補填額	
異常補填	○発動要件(原則) 当該四半期の輸入原料平均価格が基準価格(直前1年間の輸入原料平均価格)の115%を超えること。
	○補填額 当該四半期の輸入原料平均価格から基準価格(直前1年間の輸入原料平均価格)に115%を乗じた額を差し引いた額
通常補填	○特例の仕組み ・上記発動要件(原則)の基準では異常補填が発動されない場合。 ・特例の基準価格(半年前の基準価格)から年率115%相当を超える上昇がある場合。 上記の場合には特例の基準価格(半年前の基準価格)の年率115%(特例の基準価格の123.3%)を超える額について、総補填額の1/3を上限に異常補填を発動する。
	○異常補填の発動がない場合 原則として、当該四半期の輸入原料価格が直前1年間の輸入原料価格の平均価格を超える場合に、当該超える部分を限度として補填金を交付する。
	○異常補填の発動がある場合 上記の額から、異常補填金を差し引いて得た額を限度として補填金を交付する。

- 補填額の決定時期
平成26年度から通常、異常補填とも当該四半期終了後
- 補填金の交付時期
当該四半期の翌四半期の第2月中旬

%+ \$

[ggc-""jjj!YT` \V! Zb!]c"

福岡県行政資料

分類記号 P E	所属コード 4 7 0 0 8 0 0
登録年度 2 7	登録番号 5